



キンシャサの軌跡



JICAコンゴ民主共和国事務所通信

2015年3月 Vol. 14

Kinky Shot! -今月のキンシャサ-

「女性と文化の集い」



和食とコンゴ料理の競演☆

「マダム、お先にどうぞ」、とレディーファーストな紳士の多いコンゴ!? 3月8日が国際女性デーであることから、こちらでは3月は女性の月とのこと。JICA女性スタッフもちょっといい気分を味わおう今日この頃★さて、1月31日、大使公邸でジャニーヌ・マフンダ大統領顧問の出席のもと、「女性と文化の集い」が開催されました。まずは大使館、JICA、UNWOMANから女性支援についてご紹介。コンゴ民のダンスを楽しんだあとは、お待ちかねのお国お料理自慢。巻きずしに挑戦するコンゴ人! てんぷらや焼き鳥は大好評★握りずし、生魚のハードルはまだまだ高い! と思いきや、あれ、シャリだけ残っている!? えびはコンゴ人も大好物です☆

-Kinshasa Life! -キンシャサで生きる-

JUDOはアウトドアスポーツ?

1974年10月30日のあの伝説のボクシング試合が行われたスタジアムの近くで、あれれ、柔道? 実はキンシャサでは、柔道はサッカーに次ぐ人気スポーツ! (関係者談、ホント?)。実に、キンシャサにはなんと125のクラブがあり、4つの地区に分かれて定期的に大会が行われています(体重別団体制)。その決勝ともなると1ドルを超える料金も何のその、満員御礼! 1000名を超えるサポーターが踊り狂い、座布団ならぬプラスチックの椅子が飛び交います(ちょっと危ない(汗))。こんなに盛んなスポーツなのに、ここには屋根も、畳も、道衣もない。溢れかえるは熱意とその心意気! そんな日本発祥の武道に取り組むコンゴ人の姿に胸を打たれたとある関係者が、周囲に協力を呼びかけ、航空会社もビックリの大量の柔道衣を日本から持参(ご協力下さった団体、個人の方、本当に有難うございます!!)。2月28日には牛尾日本国大使により贈与が行われました。目指せ、チャンピオン★夢は2020年東京オリンピック!! 今すぐ、動画をチェック! ↓

<http://www.youtube.com/watch?v=MbJZrIFGUHO>

https://www.youtube.com/watch?v=3U20uCsMYTo&feature=em-share_video_user



←道衣は貸し借り。でも、夢はチャンピオン!!

興奮が渦巻く決勝戦(ハンドボールコートにポロボロのマット)→



←大使から柔道衣を贈与(柔道協会会長は雲をつく大男!)

Eat Kinshasa! キンシャサで食べる-

ミ・ワ・ワの“Majestic River”



コサコサも素敵な盛り付けで登場



憧れのコンゴ河クルーズ!

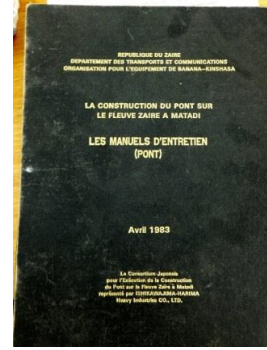
キンシャサに新たな本命デートスポット出現! 事務所に程近いコンゴ河岸に浮かぶ客船を改造した高級レストラン。客船をそのまま使っているの、桟橋を渡って、階段を上って、と豪華客船クルーズへ出発! と気分上々☆

2階の船内がメインのレストラン。内装もけっこう豪華で気分満点! 西洋料理中心ながら、コンゴ料理も少々。ワインはやや高めか?。でも、船上は揺れるのでアルコールの回りが早くて経済的!、だとかそうでないとか。お食事のあとは、最上階のバーへ。コンゴ川の爽やかな夜風に当たりながら、川面の向こうにブラザビルの夜景を眺めるといふ素敵なひと時を過ごしましょう☆

なんと、この客船、ちゃんと動きます! 気になるクルーズは週末のみ(不定期)で90USD(ちょっと高い?)。あなたの特別な日に、コンゴ川でクルーズと洒落込んではいかがですか!?

1991年9月23日。早朝の静けさを破り、キンシャサの街の各所で暴動が発生。キンシャサ在住の日本人をはじめ、JICAの専門家として派遣された(株)IHの滝澤氏以下4名も巻き込まれました。彼らは前日にキンシャサ入りしたばかり。郊外のオカピホテルに宿泊していたものの、なんとホテルが襲撃！兎にも角にも着の身着のまま近くのレバン大使公邸に逃げ込み、日本大使館に保護されました。暴動発生から2日後、日本人全員が隣国コンゴ共和国の首都ブラザビルに脱出し、救援機で帰国したのです。

マタティ橋建設後の数年間は、日本人専門家が塗装状態など橋の状態を確認。さらに、現地スタッフを日本に呼んでの研修が行われていたのですが、この暴動で協力がストップ。しかし、日本人専門家の派遣は途絶えるも、そこはOEBK★なんとか自分たちでこの橋を守ろう！と、日本人専門家の残した維持管理マニュアルを片手に、自分たちでマタティ橋の現状調査を実施。そして、なんと1995年には、マタティ橋の現状に関する調査報告書を纏め上げました！で、その使い道は？そう、是非日本人専門家の再派遣を！と、この報告書を日本大使館に提出したのです。残念ながら、その時点では専門家の派遣条件が整わなかったため、派遣は叶わず。でもこの熱意に打たれ、JICAは日本での研修を計画。そして、建設時にOEBKの日本人スタッフに新卒でリクルートされ、建設中に日本の技術をしっかり受け継いだマティアッタさん、カロンボさんが研修生として来日を果たしたのです。さらに1996年、ついにOEBKの努力が報われたのです！！(続く)



建設当時の維持管理マニュアル！



機材が不十分でも懸命にメンテナンスに取り組む！

今回の連載には、建設当時のマタティ橋関係者の皆様にご協力いただいております。

コン月のイベント

二度目の正直？竣工式開催！！

「コンゴ・日本大通り」を大統領と渡り初め



INPPの入口でテープカット！

浄水場の記念碑前で、水道公社のスタッフと、お揃いのドレスを身にまとうJICA女子による記念の一枚★



やりました！

2月20日(金)にンガリエマ浄水場、21日(土)には、ポワ・ルー通り及び職業訓練校(INPP)の竣工式が、カビラ大統領はじめ、国会議長、マタタ首相、関係大臣(関係ない大臣も沢山)、キンシャサ州知事などが参列し盛大に開催されました(感涙)。

昨年11月8日に満を持して準備された3式典同時開催が、前日夜にドタキャンされ全ての関係者が「遠い目」になったのも今やなつかしい思い出(?)。といっても、今回も「満を持して」とはなかなか言い難い準備模様。インフラ大臣から招待されたとある水曜日の夕食会で、「今週末、竣工式を行いたい、ご都合いかが？」と突然の申し出に、慌てた所長はその場で大使に電話。その後、「やっぱり2日で準備は難しいから、1週間延ばしましょう」とのインフラ大臣の発言。今回はホントにやるの？と関係者一同頭にクエッションマークを張り付けながら、準備に奔走。アフリカ開発協会の矢野会長の訪問が拍車をかけ、ドタバタと準備が行われたのでした。そして、式典の4日前にはポワ・ルー通りは「コンゴ・日本大通り」と正式に命名されました(感涙)。

やればできるじゃないかコンゴ民！でも、油断は禁物？

愛すべき？コンゴ人



所属：保健省第2局長
氏名：マダム・ボンポ

13ある中央保健省の部署で唯一の女性局長マダム・ボンポ。第2局は病院や医療施設を担当し、5S KAIZEN TQMの全国的普及に向けて自らも地方出張に同行し、今年だけで5州を訪れました。服装はいつもおしゃれにパーニユのコンゴ美人です！

編集後記

<☆今月のンガラ語☆> 「キトコ」

これをレストランで使えば、おまけがつくかも？人にも使えますが、あまり言ってもらえたことはありません(涙)

前号の答えは、「ムラ ヤシカ」=「新年」。「ヤシカ」だけなら、「新しい(最新の)」。安全運転の事務所ドライバータニエルは、「ヤシカ」な道路交通標識の本を手に、「これを知らないドライバーが多すぎる」とキンシャサドライバー事情を嘆く日々。

3月8日は国際女性デー。この日を記念してのパーニユも販売。キンシャサの女性はいつも元気いっぱい！さて、今回は、少し早めに皆様にお会いできるかもしれません!?お楽しみに！